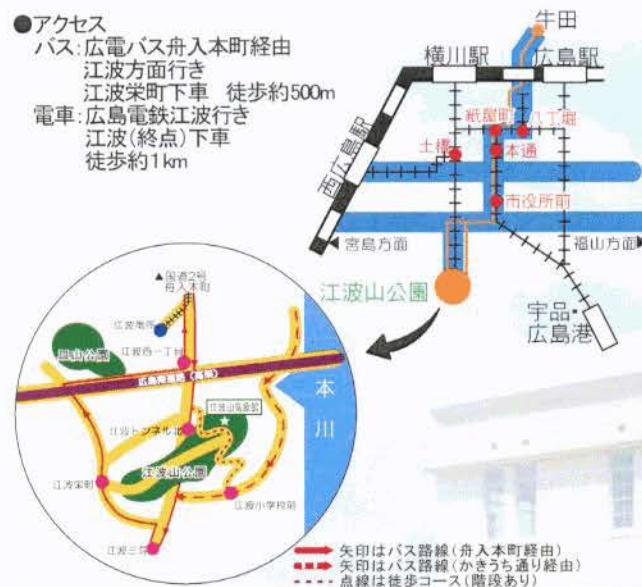


利用案内

- 開館時間
午前9時～午後5時まで(入館は午後4時30分まで)
- 休館日
毎週月曜日(祝日・休日の場合を除く)、祝日の翌日、年末年始
※休館日は変更になる場合がありますので、詳細についてはお問合せください。
- 入館料
大人: 100円(80円) シニア、高校生: 50円(40円) 中学生以下: 無料
※()内は30人以上の団体料金です。
※高校生とは、高校生または18歳に達する日以降の最初の3月31日
までの人です。
※シニア料金は65歳以上の方が対象です。(年齢確認のできる公的
証明書のご提示が必要です。)
※障害者手帳等の提示ご本人と介添者の方は無料です。
※その他、入館料の減免については、直接お問い合わせいただか
气象館ホームページをご覧ください。
- 無料開放日
5月5日～5月11日まで(休館日を除く)※高校生対象
土曜日(夏休み、冬休み、春休みおよび祝日を除く)※高校生対象
気象記念日(6月1日)に最も近い日曜日および文化の日(11月3日)
- アクセス
バス: 広電バス舟入本町経由
江波方面行き
江波栄町下車 徒歩約500m
電車: 広島電鉄江波行き
江波(終点)下車
徒歩約1km



旧広島地方気象台は、昭和9年に広島県立広島測候所として建築され、昭和14年に国営移管、昭和62年に中区上八丁堀の合同庁舎に移転しました。

昭和20年には原子爆弾により被災しましたが、職員による気象観測は1日も休むことなく続けられました。同じ年の9月には枕崎台風が広島を襲い、このときの様子は柳田邦男の小説「空白の天気図」でも詳しく紹介されています。

建物は鉄筋コンクリート造りで、戦前の建物の特徴と新しいモダンなデザインをあわせもつ、建築技術的、デザイン的にも非常に優れた建物であり、平成12年7月に広島市の重要有形文化財に指定されました。

戦前の鉄筋コンクリートの建物は戦争のため、昭和14年ごろを境にその建築が行われなくなります。このことから、旧広島地方気象台は戦前の鉄筋コンクリートの建物としては最末期のものといえます。

旧広島地方気象台 [広島市指定重要有形文化財]

広島市江波山気象館

HIROSHIMA CITY EBAYAMA MUSEUM OF METEOROLOGY

見学のご案内



広島市江波山気象館

HIROSHIMA CITY EBAYAMA MUSEUM OF METEOROLOGY

〒730-0835 広島市中区江波南一丁目40番1号

☎(082)231-0177 FAX(082)234-1013

URL <http://www.ebayamajp>



公益財団法人広島市文化財団

2階

対流圏ゾーン（気象体験コーナー）
風速20メートルの風、雲の中、雷の実験などを体験することができます。



豪雨・暴風疑似体験

大型モニターの映像の中に自分の姿を合成し、豪雨や暴風の中にいる様子を疑似体験することができます。



体験コーナー Hands On!

体験を通して科学のふしげに触れることができるスペースです。



※撮影を利用したいろいろな体験展示です。

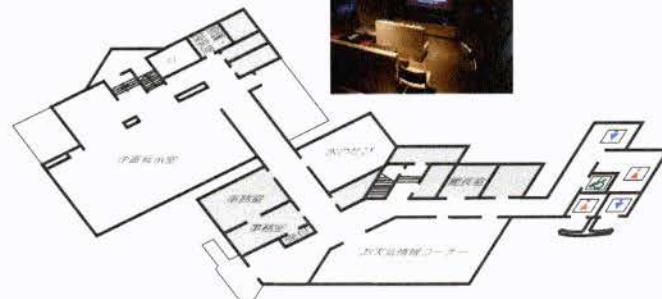
※展示内容は変更となることがあります。



1階

映像コーナー

「水のたび」、「広島の四季」、柳田邦男氏の小説
「空白の天気図」の3番組を上映しています。



被爆保存壁
原子爆弾の爆風を受けた外壁を保存しています。



爆風で曲がった窓枠

お天気情報コーナー

気象観測や大気予報の様子を見学したり、インターネットや図書を利用して気象の情報を調べることができます。また、相談カウンターもあり、気象についての質問や相談についても対応しています。



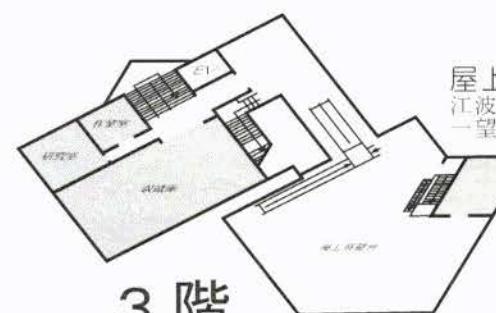
広島市江波山気象館は、被爆建物でもある旧広島地方気象台の建物を保存・整備し、平成4年に開館した気象と科学をテーマとした博物館です。

旧広島地方気象台は昭和20年8月の原爆により被爆し、内部には被爆の傷跡が残るほか、当時の様子を描いた柳田邦男氏の小説「空白の天気図」の舞台としても知られています。



竣工当時の旧広島地方気象台（当時 広島県立広島測候所）

屋上



屋上展望台

江波山山頂にある気象館屋上からは、広島市内を一望できます。



3階



ミュージアムショップ (1階エントランス)

気象館オリジナルの実験グッズや、天然記念物「ヒロシマエバヤマザクラ」グッズなど科学学習に、おみやげに多彩な商品をそろえてご利用をお待ちしております。